

漢字未知語の意味推測に及ぼす語構成の影響 —中上級非漢字系日本語学習者のケーススタディより—

桑原陽子

要旨

本稿では、中上級非漢字系日本語学習者4名を対象に、漢字2字熟語（漢字語）の意味推測を行わせ、意味推測の成功とその漢字語の語構成、漢字語を構成する個々の漢字の意味の捉え方との関わりについて考察を行った。調査の結果、意味推測に失敗している漢字語には、語構成の判断が困難なものが目立った。また、学習者にとっての語構成の分類判断の難易度は、語構成のタイプによって異なることが示された。一方、漢字語を構成する個々の漢字については、漢字そのものの意味の把握ができておらず、意味推測に用いられる情報がその漢字を含む別の漢字熟語のみである場合、正しい意味推測につながりにくいことが示唆された。

キーワード：漢字語 意味推測 語構成 非漢字系日本語学習者 中上級

1. 本研究の目的

中級以降の日本語学習者は、読解活動を行う上で未習の語彙に遭遇することは避けられず、それらの意味を推測しながら読む技術が要求される。特に、非漢字系日本語学習者の場合は、未習の漢字語彙の意味推測が不可欠な技術となる。非漢字系日本語学習者を対象とした漢字語彙の意味推測に関する先行研究では、漢字から得られる意味的な情報と、文脈から得られる情報とを統合して活用することにより、的確な意味推測が可能になることが指摘されている (e. g., Mori, 2003)。

本研究では、特に漢字2字以上から成る漢字熟語（以後、漢字語とする）を材料として、4名の中級以降の非漢字系日本語学習者を対象に、その意味推測について、個別調査を行った。量的分析ではなく、質的な分析を行うことによって、非漢字系日本語学習者の読みの学習支援において必要な視点が得られると考え、学習者の意味推測の内容をできるだけ詳細に記述することを試みた。得られたデータから、以下の(1)と(2)について考察した。

- (1) 漢字語の語構成が意味推測にどのような影響を及ぼすか。
- (2) 漢字語を構成する個々の漢字の意味のとらえ方が、意味推測にどのように関わるか。

なお、本研究では漢字語を構成する漢字の頻度を補足的に考察に利用する。ここでいう頻度は、漢字そのものの使用頻度ではなく、漢字語の前（左）と後（右）のどちらに使われるかについての頻度である。詳細は次項で述べる。

2. 漢字語の語構成

本研究では、データ分析の材料として、漢字語の語構成と漢字語を構成する漢字の使用頻度を用いる。まず、漢字語の語構成は、日本語教育学会(2005)をもとに、その構造が明確なものを次

のように分類する。()内のNは名詞相当、Vは動詞相当、Aは形容詞相当、ADは副詞相当を示し、漢字語は各分類にあてはまる例である。

- 1) 並列 (N+N: 河川 V+V: 増加 A+A: 広大)
- 2) 対立 (N+N: 天地 V+V: 売買 A+A: 強弱)
- 3) 連体修飾 (N+N: 牛乳 V+N: 造花 A+N: 美人)
- 4) 連用修飾 (A+V: 新着 V+V: 焼死 AD+V: 特集 AD+A: 最短)
- 5) 補足 (N+A: 頭痛 A+N: 多額 N+V: 日没 V+N: 読書)
- 6) 重複 (個々・黙々)
- 7) 接辞や助辞のつくもの (非常・不明／公的・悪化)
- 8) 省略 (国際連合→国連)
- 9) 音借 (時計・素敵／旦那・阿片)

これらの語構成のパターンのうち、最も多いのは3)の連体修飾であり、次いで1)の並列である(日本語教育学会, 2005)。

個々の漢字語について上記の語構成のどのタイプに当てはまるかを判断するのは、実は容易ではない。語構成を判断するための構成要素がどれだけ抽出できるかは、その結合関係の透明度が大きく関わっており、その結合関係の透明度は連続的であるからである(小林, 2004)。また、大部分の漢字語(二字漢語)は、複合語であるという意識が明らかなものと単純語との間に存在する「単純語に近い合成語である」という指摘もある(日本語教育学会, 2005)。したがって、上記の分類にあてはまらない漢字語も多数存在する。本稿では、個々の漢字語の語構成を判断する際に、小林(2005)、野村(1999)、森岡(1967)、日本語教育学会(2005)を参考とした。

次に、漢字語を構成する漢字の頻度の指標について述べる。頻度の指標には、川上(1997)のTable 6を使用する。同研究では、JIS 一種漢字 2965 字を用いて作成される漢字語について、それらを構成する個々の漢字が、前(左)に来る場合と後(右)に来る場合の頻度を調査している。

例えば、「愛」という漢字を使って作られる漢字語は 107 種類あり、そのうち 61 では「愛」が前(左)に使われ、46 で「愛」が後(右)に使われることが示されている。この「愛」についての使用頻度を、本項では「61>46」と示すことにする(表1～表3参照)。このように、当該漢字が漢字語のどちら側に使用されることが多いのかも、漢字の意味推測に関わるのではないかと予測する。

3. 研究方法

被調査者 非漢字系日本語学習者4名(中級～上級)である。それぞれの日本語学習暦と母語を以下に記す。

- ・学習者A(英語) 中級 日本語学習歴3年
- ・学習者B(英語) 中級 日本語学習歴3年
- ・学習者C(マレー語) 上級 日本語学習歴6年4ヶ月
- ・学習者D(ドイツ語) 上級 日本語学習歴4年

調査材料 調査には、読む素材である日本語の「文章課題」と、「漢字語の評定リスト」の2種類を用いた。「文章課題」は、150字程度の日本語の文章で、雑誌、新聞からの抜粋が中心であったが、読みの負担を軽減するため、調査対象の漢字語以外の語彙、表現は平易なものに書き換えた。

「漢字語の評定リスト」は、調査対象となる漢字語とその漢字語を構成する漢字それぞれについて、既知か未知かを5段階評定し、漢字語の意味を回答するためのリストである(資料1参照)。当該漢字及び漢字語について知っている場合は1、全然知らない場合は5、わからない場合は3と評定するよう指示した。

調査方法 個別調査であった。2008年4月から2008年8月まで、約2週間ごとに実施した。調査の概要は次の通りである。

- ① 被調査者に「漢字語の評定リスト」の各漢字語と漢字について既知か未知か評定させ、漢字語の意味を回答させた。漢字語の意味がわからない場合は、「わからない」と回答するよう指示した。回答は日本語でも英語でもどちらでもよいこととした。
- ② ①の「漢字語の評定リスト」を回収後、「文章課題」を数分間黙読させた。
- ③ 被調査者に文章を音読させ、漢字語の読みを確認した。間違った場合も訂正はせず、正答は教えなかった。
- ④ 最初から1文ずつ意味を説明させた。説明は、日本語でも英語でもよいことにした。調査者は適宜、漢字語の意味を確認し、なぜそう考えたか説明させた。
- ⑤ 「漢字語の評定リスト」を再度配布し、漢字語の意味を再度回答させた。「課題文章」を読む前と回答が変化したかを確認し、変化した場合は理由を説明させた。
- ⑥ 文章中の意味のわからない単語、初めて見た単語を報告させた。
- ⑦ 被調査者が、「意味がわからない」と回答した漢字語について、学習者が知りたい順に意味を解説した。1語解説するごとに、「課題文章」の意味解釈がどのように変わったか確認した。

1回の調査時間は約1時間程度であった。調査中の会話は被調査者の承諾を得てできるだけ録音した。本稿では、上記の①から⑦までの手順のうち、①で得られた「漢字語の評定リスト」の評定値と漢字語の意味として記述された回答を分析対象とする。各学習者が評定した漢字語の数は、学習者Aが55、学習者Bが66、学習者Cが55、学習者Dが43であった。なお、②以降の「文章課題」読後の意味推測の変化については他稿に譲ることとする。

4. 結果と考察

「漢字語評定リスト」の結果を基に、漢字語及び個々の漢字について評定値が3から5であるものを「未知」、評定値が1のものを「既知」とした。被調査者の回答から未知の漢字語を抽出し2種類に分けた。1つ目は、漢字語を構成する漢字2字が両方とも既知のものである。2つ目は、漢字語を構成する漢字のうち1つが既知で1つが未知のものである。それぞれについて次項で述べる。

4-1. 漢字2字とも既知の漢字語

漢字2字ともに「既知」と回答された未知の漢字語の中で、意味推測がほぼ成功していると考えられるものは全部でのべ19例で、異なり数は14例であった。それら14例の語構成と漢字の頻度を表1にまとめた。

頻度の欄に色がついているものは、当該漢字語に使用されている漢字の位置が、使用頻度の高いほうであることを示している。例えば、「別状」(1-1)を例にとると、左側漢字の頻度は、「別」の使用頻度を示しており、「別」が左側に使用される頻度は102、右側に使用される頻度は64で、右側よりも左側に使用されるほうが多いことを示している。「別状」自体も、「別」が左側に使用されているので、欄が色つきとなっている。

「回答者」は、その回答を行った学習者を示し、「評定値」はその漢字語に対する回答者の評定値を示している。「自死」(1-7)を例にとると、「自死」の意味について「自分が死ぬこと」と回答したのは学習者CとDでどちらも評定値は4であった。学習者Bは「自殺」と回答し評定値は4で、学習者CDとは異なるため別の欄に記載している。

表1 意味推測がほぼ成功している漢字語14例(のべ19例)

No.	漢字語	語構成	頻度		回答	回答者	評定値
			左側漢字	右側漢字			
1-1	別状	連体修飾 NN	102>64	13<155	病気になること、危ない状態	D	3
1-2	農薬	連体修飾 NN	47>29	63<97	農業で使う肥料や虫をよけるための薬	D	3
1-3	遺児	連体修飾 VN	89>4	13<47	孤児。両親が死んだ子ども	D	5
1-4	講師	連体修飾 VN	37>33	37<128	講義をやっている人	D	4
1-5	重症	連体修飾 AN	122>60	3<18	病気の状態が重い。危ない	D	3
1-6	格安	連用修飾 ADA	23<52	86>48	値段が安い	CD	3
1-7	自死	連用修飾 ADV	157>7	78>68	自分が死ぬこと	CD	4
					自殺	B	5
1-8	熱狂	連用修飾 ADV	54>49	49>19	熱心よりもっと強い感じ。「狂」からマイナスイメージ	D	4
1-9	開業	補足 VN	103>18	34<155	open for business	A	4
1-10	搬送	並列 VV	4>1	30<44	船に乗せて運ぶ	D	3
1-11	投入	並列 VV	41>12	130>87	入れる 投資?	D	3
					throw into	B	3
					投げる	C	3
1-12	浮上	並列 VV	82>3	251>147	float	C	3
1-13	業務	並列 NN	34<155	0<89	事務の仕事	C	3
1-14	呼吸	対立 VV	17>11	23>3	call out, breath?	B	3

意味推測に成功しているものは、すべて漢字語の語構成の判断が可能であった。また、連体修飾（5例）と並列（4例）が比較的多く見られるのは、前述したように全体に占める割合の高さによるものであろう。連体修飾の構造を持つ漢字語では、漢字語を構成する個々の漢字がすべて使用頻度の高いほうの位置にある。このように、漢字語を構成する漢字が使われやすい位置にあるものは、学習者が普段目にする機会も多いと考えられる。それも、意味推測の助けになっているのではないだろうか。

回答者の欄を見ると、19例中10例が学習者Dによるものである。このことから、日本語力の高い学習者Dは意味推測の成功が他の学習者よりも多いことがうかがえる。

次に、意味推測に失敗している17例（のべ19例）を表2に示す。語構成が不明確で分類が困難なものを「？」とした。また、「五輪」（2-5）は「五つの輪」と考えれば「連体修飾」であるが、本来の意味は五つの輪が示すオリンピックであることから、単なる「連体修飾」ではないと考え「？」を付記している。「回答：推測失敗理由」の欄の「×」は、全く推測が不可能であったものを示す。「推測失敗の理由」は、学習者の内省報告やインタビューから筆者が解釈したものである。

表2 意味推測が失敗している漢字語17例

No.	漢字語	語構成	頻度		回答：推測失敗の理由	回答者	評定値
			左側漢字	右側漢字			
2-1	私語	連体修飾 NN	113>6	42<149	自分の国語：「私」の意味の取り違え	A	4
2-2	値札	連体修飾 NN	11<31	13<91	紙幣：「札」の意味の取り違え	C	3
2-3	別状	連体修飾 NN	102>64	13<155	×	A	3
2-4	外科	連体修飾 NN	202>93	17<61	×	B	5
2-5	五輪	連体修飾 NN?	168>10	51<81	面倒くさい：英語の影響	A	3
2-6	有毒	補足 VN	97>49	44>32	×（「有」は「有名」として既知）	A	3
2-7	来日	補足 VN	80>66	132<187	明日かあさって：「来」の意味の取り違え	A	3
2-8	隣接	補足 NV	20>14	35>25	親しい（隣に接するから）：意味の深読み	C	5
2-9	君臨	補足 NV	28<77	31>12	×	D	5
2-10	専念	連用修飾 ADV	35>8	26<62	×（「念」は「記念」として既知）	B	3
2-11	引退	並列 VV	86>83	62>25	×	B	3
2-12	出産	並列 VV	153>126	53<61	×（「産」は「日産」として既知）	B	4
					×	A	4
2-13	殺到	接辞	18<58	5<10	×	D	5
2-14	背広	?	54>25	57>16	×	B	4
					「背中が広い」	C	4
2-15	現役	?	65>18	47<124	×（「現在」+「役に立つ」と解釈）	B	3
2-16	手段	?	233>232	30<34	×：「段」の意味の取り違えあり	B	3
2-17	水準	?	290>228	19>9	×	A	3

表2では表1と異なり、語構成の判断が困難なものが見られる(2-14から2-17)。このことから、語構成が明確でないものは意味推測が困難であることがうかがえる。

語構成が明確であると考えられる2-1から2-13までののべ14例について、「回答:推測失敗の理由」を見ると、最も多いのが意味推測が全くできなかった「×」の9例である。そのうち、3例は、個々の漢字について他の熟語しか想起できなかったことが意味推測失敗の理由であった(有毒、専念、出産〔学習者B〕)。「専念」(2-10)では「念」について『記念』の『念』だと知ってはいても「念」それ自体の意味は知らなかった。「出産」(2-12)では「産」を「日産(企業名)」に使われている漢字として知っていたが、「産」自体の意味は知らなかった。非漢字系日本語学習者が個々の漢字についてその意味を想起しようとする場合、漢字自体の意味ではなく、その漢字を使った熟語しか想起できない事例は数多く観察される¹⁾。このように、漢字自体の意味ではなく熟語が想起される場合、そしてその熟語が必ずしもその漢字の中心的意味ではない場合、正しい意味推測の障害となる可能性が非常に高い。「漢字を知っている」と学習者が回答する際、その漢字を使った漢字熟語を知っているだけの場合と、その漢字自体の意味を知っている場合の2つ場合があり、前者では漢字語の意味推測が難しいと言えるだろう。

「有毒」(2-6)の「有」については「有名」が想起され、「出産」(2-12)の「産」は「日産」、「専念」(2-10)の「念」は「記念」が想起されているのを見ると、それぞれの漢字が同じ位置にある別の単語を想起する傾向もうかがえる。それらはすべて、その漢字の使われる頻度が高いほうの位置にあることも、影響している可能性が考えられるだろう。

一方、「君臨」(2-9)と「殺到」(2-13)は最も日本語力の高い学習者Dの事例で、学習者Dはそれぞれの漢字の意味をすべて正しく理解していたが、漢字語としての意味は回答できなかった。「君臨」(2-9)はその構造が補足だと判断されたものの、それを把握することは上級の学習者にとっても非常に難しいと考えられる。また、「殺到」(2-13)の「殺」に対して、「殺人」のように「殺す」という意味が想起された。しかし、ここで「殺」は接辞として使用されており、「殺」が「程度がはなはだしい」という意味で使用されることを知っている学習者はいなかった。このような接辞としての用法も、非常に難しいと言える。

次に、誤った意味推測をした5例(私語、値札、五輪、来日、隣接)を見ると、その主な理由は個々の漢字の意味の取り違いである。例えば「私語」(2-1)では、「私」を“private”と考えず“my own”にとらえ「自分の国語、すなわち母語」と意味推測している。また、「来日」(2-6)では、「日」を「日本」ではなく“day”と考えたため、「もうすぐ来る日、すなわち明日かあさって」と推測している。誤推測ではあるものの、このような推測が成り立っている漢字語は、5例中4例、「五輪」を含めれば6例中5例が、漢字語の語構成が明確なものである。やはり、何らかの意味推測が可能となるには、語構成が明確であることが必要であると言えるだろう。

また、回答者を見ると、表1とは逆に学習者AとBの事例がのべ19例中13例で大半を占めていることから、日本語力の高低と意味推測の成功不成功は関わりがあると考えられる。

4-2. 漢字が1字だけ既知の漢字語

漢字が1字だけ既知である漢字語について述べる。該当する事例は合計28例見られるが、そのうち意味推測が成功している例はわずか4例（のべ5例）である。この4例を表3にまとめた。やはり、漢字語を構成する漢字が1つしかわからない場合、意味推測は非常に難しいと言える。

表3では、漢字語のうち下線を引いているほうが、学習者が「既知である（評定値1）」と回答した漢字で、下線を引いていないほうは、評定値が3から5であった漢字である。表3中の「評定値」は「未知」と回答された漢字（下線のないほう）の評定値を示す。

表3 漢字1字による意味推測成功例

No.	漢字語	語構成	頻度		回答	回答者	評定値
			左側漢字	右側漢字			
3-1	<u>格</u> 安	連用修飾 ADA		86>48	安い	C	3
3-2	<u>搬</u> 送	並列 VV		30<44	Sending	B	4
					Transport	C	3
3-3	<u>重</u> 症	連体修飾 AN	122>60		重い病気	C	3
3-4	<u>生</u> 誕	並列 VV	170<18		birth, renewal	B	5

「重症」(3-3)については「症」の「疒」が病気関連の意味を示す部首であることから、「症」を知らなくても単語の意味推測が可能であった。「木」「彳」と異なり、「疒」は意味が限定されており、意味推測に有用な部首であると言える。玉岡（2005）では、部首の意味と漢字の意味とが直接つながりを持たないものがあることを指摘しており、それを考慮するならば、中級以降の学習者にとって部首の利用は弊害もあることが示唆される。しかし、「疒」のように部首と漢字の意味とが強く結びつく漢字については、部首の利用は有用であろう。

「生誕」(3-4)「搬送」(3-2)については、どちらも語構成が「並列 VV」であることから、既知の漢字を利用することで正しい意味に近づくことができる。学習者はこれらの漢字語の構造については全く知らないため、本稿のデータの限りにおいては、意味推測の成功は偶然と考えるのが妥当であろう。左右どちらの漢字が既知で、その頻度と意味推測の成功がどう関わるのかについて議論するには、今後さらに用例を収集する必要がある。

なお、「生誕」(3-4)の「誕」について、学習者Bは「未知」と回答しているが、「誕生」を見せたところすぐに「たんじょう」と音読でき意味を理解することができた。また、学習者Aは、「生誕」について学習者Bと同様に「誕」は「未知」と回答し、漢字語の意味は全く推測できなかった。さらに、「誕生」を見せても全く意味がわからなかったが、「誕生日」を見るとすぐに「たんじょうび」であることを思い出し、意味も理解できた。これは普段「誕生日」の3文字で目にしてきたためだと報告している。実は漢字を知っていても、単語として記憶しており、普段見る位置と漢字の並び方が異なると容易には想起できないことがうかがえる。このような事例からも、漢字語中どちらの位置によく用いられるのかという漢字の頻度が、漢字語の意味推測に

大きく関わる可能性が示唆される。

5. おわりに

以上の結果から、以下のことが示された。まず、語構成が明確でない漢字語は、意味推測に失敗する可能性が高いということである。個々の漢字が既知であり漢字語の意味推測に失敗している漢字語の中にのみ、語構成が判断できなかったものが見られたことからそのことが示唆される。ただし、本稿で漢字語の語構成の分類に用いたのは、漢字語の語源等の知識に基づく日本人による判断である。中上級の日本語学習者が、漢字語の語構成について、いったいどの程度判断できるのかについては、日本人の判断とは別の尺度が必要なのではないだろうか。

このような漢字語の語構成判断の難易度には、2つの視点を考えなければならない。1つは、語構成のタイプの間の難易度差である。例えば、本調査の結果でも示されたように、連体修飾は比較的理解しやすいが、接辞的用法を含むものは難しいであろう。もう1つは、同じ語構成のタイプに属する漢字語の中にも、判断が容易なものと同難なものが存在するという点である。今回の調査では、「君臨」が困難な例として挙げられる。これら2つの視点から、非漢字系学習者にとっての困難点を把握することによって、学習者に漢字語の語構成に関する知識をどの程度教えるのかについて検討することができるだろう。

次に、個々の漢字の意味について、その漢字を含む熟語しか想起できず、漢字自体の意味が明確にとらえられないことが、意味推測の失敗を引き起こすことが示された。このことは、漢字の意味の捉えさせ方を見直す必要があることを示唆する。意味を限定し明確にとらえることが難しい漢字もあるので、すべての漢字の意味を個々に把握することは不可能である。しかし、例えば『有毒』の『有』は『ある』という意味だ(2-6)ということは、全く問題なく理解できるはずであり、中級以降の学習者であれば持つべき情報であろう。実際、上級の学習者CDはそのような知識を利用して「有害」について正しい意味理解と説明が可能であった。中級以降、学習すべき漢字語は飛躍的に増加するため、単語単位で漢字を学習する傾向が強まることは確かである。しかし、そのような中でも、やはり各漢字の意味についても、意味推測に有用な情報については、確実に学習していくことの必要性が確認されたと言えるだろう。

また、部首の中でも意味推測に有用なものと同そうでないものを識別すべきであることも示唆された。今回の見られた事例は「疒」であったが、これ以外の部首について、中級以降でも意味の推測に積極的に生かせるものはないのか、検討する必要があるだろう。

なお、本稿では、文脈と切り離れた状況で行った漢字語の意味推測について考察したが、文脈のある状況で同じ漢字語に遭遇した時、最初の意味推測からどのように変化するかについては、触れていない。Moriの一連の研究が指摘しているように、漢字の情報と文脈の情報とを適切に統合することによって、意味推測が可能になることをふまえるならば、文脈情報を得た後の推測の変化についても詳しく検討すべきである。この点については継続して分析を行う予定である。

注1) 本稿の調査以前に行った類似の調査においても数多く観察されている。本稿の調査以前に行った調査については、CAJLE2008 年次大会 (Canadian Association of Japanese Language Education2008)において口頭発表を行った。発表タイトル「非漢字圏日本語学習者の漢字未知語の意味推測ストラテジーに関する一考察—中級学習者のケーススタディより—」

本稿は、科研費（19652047）の助成を受けたものである。

引用文献

- 川上正浩 1997 「JIS 一種漢字 2965 字を用いて作成される漢字二字熟語数表—Macintosh 版岩波
広辞苑第四版に基づく類似語数調査—」『名古屋大学教育学部紀要(心理学)』第 44 巻 243-299.
- 小林英樹 2004 『現代日本語の漢語動名詞の研究』 ひつじ書房
- 玉岡賀津雄 2005 「サンズイとイトヘンはどのくらい漢字の意味に影響するか」『広島大学留学生
センター紀要』第 15 号 11-24.
- 日本語教育学会（編）2005 『新版 日本語教育事典』大修館書店
- 野村雅昭 1999 「サ変動詞の構造 森田良行教授古希記念論文集刊行会」（編）『日本語研究と日
本語教育』1-23. 明治書院
- 森岡健二 1967 「現代漢語の成立とその形態」『国語と国文学』44 23-47.
- Mori Yoshiko 2003 The role of context and word morphology in learning new Kanji words. *The
Modern Language Journal*, 87, 404-420.

資料1 漢字語の評定リスト例

	知っていた			全然知らなかった		
閉店	1	2	3	4	5	
閉	1	2	3	4	5	
店	1	2	3	4	5	
特売	1	2	3	4	5	
特	1	2	3	4	5	
売	1	2	3	4	5	
終電	1	2	3	4	5	
終	1	2	3	4	5	
電	1	2	3	4	5	

The effects of word formation on interpreting unknown Kanji compounds:
A study of intermediate and advanced Japanese learners from non-Kanji culture

KUWABARA Yoko

This study investigated relationship between the interpreting unknown Kanji compounds (i.e., words consisting of two Chinese characters) and its word formation (e.g., words consisting of kanji representing similar concepts: 増 increase+加 add, gain = 増加 increase, rise), understanding the meaning of each Kanji (e.g., 有 there is, be, 毒 poison) that make up the Kanji compounds (e.g., 有毒 poisonous). Subjects of this research were four intermediate and advanced Japanese learners from non-Kanji culture. The result showed that interpreting of Kanji compounds was difficult if its word formation was not clear. Furthermore, meaning of each Kanji (e.g., 有) was more useful information for interpreting target Kanji compounds (e.g., 有毒) than other Kanji compounds including that Kanji (e.g., 有名).

Keywords: Kanji compounds, interpreting unknown word, word formation, intermediate and advanced Japanese learners from non-Kanji culture